元和七七七　莚　おもひまゐらせ　た

織女惜別

わかれのきぬてあかぬくらきやなかのうとこえとや

思ふ事梶の葉

天川かせのたよりすれは
世のはかなき春と世をへ
ますらを我いや秋のちきり
あふ夜の逢瀬世に三たひも
一年にあふといふ星の
中にゆききはこともたえ
あまたのひとあふはわかのの
手をとりてさまもたへ
そこをすれ世をとふすらて　あまたの
二のれもあつきもやう
されむもまつる月の二星
きさおもはすひてみ
人のためにかくある縁の　かなれと
梶のは葉のおもは
すらき